

学力低下問題を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。

開倫塾の塾長の林明夫です。今朝も開倫塾の時間を聴いて頂いて有り難うございます。

2. 12月6日金曜日に東京フォーラムで「OECD フォーラム・イン・ジャパン」が開かれました。OECD というのはパリに本部がある経済協力開発機構です。11月の下旬に日本の経済を「このようににしたらいいのではないか」という答申書を出しました。私は OECD にとても関心がありますので参加しました。そこでの結論は「資源の適正配分」です。日本という国には人的資源、その他のいろいろ、沢山の資源がある。その税金の再配分が適正に行われていないため、日本の経済がここまで悪くなってしまった。税金再配分を担う公務員の仕事の在り方が問われていました。公共事業のような形ですと一いつと何年も続けてきてしまったツケや、公務員の働き具合が経済をここまで悪化させてしまったというのが結論でした。これから政治の問題を考えるときには、「はたして日本の資源が適正に再配分されているのだろうか」ということを考えるのもおもしろいかもしれません。

3. 今日は「学力低下問題」についてお話しさせていただきます。これも政治問題です。今年の4月から小学校、中学校では3割教える内容が削減されました。良い面は「みんながよく分かってよかったということ」「先生方も教えやすくなってよかったということ」があります。悪い面は良い面の百倍以上あります。「ちょっと勉強が好きな子とか、得意な科目がある子にとっては応用問題がほとんどなくなってしまいましたので、応用力が全く身に付かないという状態になってしまいました。先生によっては熱心に対応を充分にしてくださっても、そうでない先生もかなりたくさんいらっしゃいますので、教科書だけ教えればよいと考えている先生ですと簡単ですから、時間が余ってしまってぶらぶらしてしまうという状況があります。得意な科目がある子にとっては、得意科目なのに全く応用力がつかないという面がでてきました。普通の子にとってもこれもまた伸びない、応用問題がほとんどありませんので、全然応用力が身に付きません。勉強する気も起きません。

4. 入学試験はどうなるかといいますと、やさしい問題は100%できなくてはなりませんので、神経衰弱になってしまう問題が増えると思います。例えばかつての京都府の府立高校の入学試験の問題はやさしい問題のオンパレードでしたので、ほとんど100点をとらないと受からないような試験になってしまいました。レベルの低いところで満点を競い、勉強の得意な子は公立の高等学校を嫌ってしまって私立に流れるという現象が未だに続いています。京都の例とおなじことが日本国中に広がりかねないということです。

5. 栃木県を含めて問題が全般的に易しくなりますので、応用問題ができる子を高等学校としては採りたいということで「傾斜配点」という方法ができました。難しい大学への進学のできる学校では、高校入試において難しい問題の配点を高くして、易しい問題の配点を低くして、難しい問題ができた方を主にとるというものです。極端な学校では、易しい問題は1点、難しい問題は9点という配点で差をつけています。ではどこで応用の力をつけたらいいか、できる人は自分で勉強をせざるをえない。自分で勉強するのが不得意なお子さんは、学習塾や家庭教師について勉強するというのでしょうか。他方大学入試のレベルはそんなに変わっていませんので、ドンドン高等学校の方にしわ寄せがいつてしまって、高校1年生、2年生で学習する内容量が増えています。そのため高校1、2年生の「落ちこぼれ」が非常に多いわけです。学校の授業についていけない子が以前にも増して増えました。無気力になったりする子が増えて、ぶらぶらしちゃうという状況がずいぶんあります。ところで大都市圏の私立高校、特に中学高校と6年間一貫の私立の学校は益々有利になりました。私立に行っている子だけ学力がつくという状況が非常に強くなっています。栃木県はそれほどありませんが、3割削減で学力が低下して、公立ではなかなか大変だということで、東京周辺はじめ大都市圏では私立中学校入試が大ブームです。
6. では栃木県ではどうしたらいいか、県内の教育委員会で問題にして考えてもらいたいと思うことがあります。教育課程審議会でも今年の8月に答申がでました。それによると、あと3年～4年しますと、教科書の分量がまた2割増えます。今の子供たちだけが3割削減されていることになります。今の子供たちは削減された少ない内容しか教われずかわいそうです。それをふまえて、これからどうするか、私は元のカリキュラムに戻すのが一番いいと思います。
7. もっと根本的なところで、先生の教え方の質を上げた方がいいと思います。日本の教員養成課程では、「教える内容」を一生懸命教えていて、「教える技術」を全くといっていいほど教えていません。教育実習と初任者研修だけでそれをやっています。「教える内容」に限定された教員養成課程ではなく、「教える技術」を教える教員養成課程にしてもらいたいと思います。今教えている先生はどうしたらいいかという、例えば宇都宮大学の大学院修士課程で、「先生の教えるスキルを研究する学科」を是非作っていただいて、そこで再研修して頂きたいというのが私の意見です。
8. カリキュラムや教材を今教えている生徒に合わせて開発できる先生を育てて頂きたいと思います。学年がスタートする前に、一年分をあらかじめ教材を作り上げて、授業に合わせて毎週のように変えていく、というのが他の国では普通にやっている先生の姿です。先生方の教えるスキルを向上させたらいいのではないかと思います。
9. 今は非常に地球の温暖化が進んで、5月～10月くらいまでは学校の室内が暑くて授業にならない日が多いようです。そこで公共事業の第一番目として学校に冷房をいれるといいです。又学校にしてみるとわかりますが、暗い学校がたくさんあります、教室の照度を高めるというようなことをやっていただければ、学力低下問題も防げるのではないかと思います。